

お話のせかいに入って音読げきをしよう
「お手紙」
アーノルド・ローベル作

めあて
音読げきはつびよう会にむけて学しゅう計画を立てよう。

がまくん
(かえるくんが)
が

かえるくんから お手紙を もらう
(がまくんに手紙を書く)
ことよって

元気
(二人ともしあわせな気分)
になる おはなし

学しゅうすること

一	学しゅう計画を立てる
二	場めんを分ける。
三	【一の場めん】 がまくんの気もちを考える。
四	【二の場めん】 家に帰ったかえるくんの気もちを考える。
五	【三の場めん前半】 家に帰ったかえるくんの気もちを考える。
六	【三の場めん後半】 お手紙をまつがまくんとかえるくんの気もちを考える。
七	【四の場めん】 お手紙をもらった がまくんの気もちを 考える。
八	音読げきはつびよう会にむけての話し合いとれんしゅうをする。
九・十	「なりきり音読げきはつびよう会」を ひらく。
十一	「お手紙」を読んで、おもしろかったところや気に入ったところなどを出し合う。
十二	出てきた人ぶつに お手紙を書く。

【分かったこと・できたこと】
・音読げきはつびよう会にむけて、がまくんとかえるくんの気もちを考えていくことが分かった。

【1 / 11時間目 指導路案】 使用するワークシート(話のあらすじ、学しゅう計画ひょう)活動のねらい

音読発表会に向けて学習計画を立てることで、今後の学習の見通しをもたせるようにする。

1 題名の手紙について知っていることや手紙をもらった経験を出し合う。

- 題名から想像できることや手紙について知っていることなどを出し合わせる。
- ※ 実際の手紙を見せ、実生活の中での経験等を思い出しやすいようにします。

2 「お手紙」を聞き、話の大体を捉えさせる。

- 教科書を用いた教師の範読を聞いて登場人物を確認させ、あらすじの大体を捉えさせる。
- ※ 誰が(中心人物)、どんなことよって(事件、きっかけ)、どうなったかという大まかな話の流れをワークシートに書かせることで、個々の読みの実態を把握することができま。
- ※ この時点では、「誰が」にあたる部分を、かえるくん、かたつむりくんとする児童もいると思いますが、話の流れに合っていればよいこととします。

3 本時のめあてを知る。

- 音読発表会に向けての学習計画を立てることを確認する。

4 学習計画を立て、できあがった学習計画をワークシートに書きこむ。

- 音読発表会をするためには、どんな準備が必要かを考えさせる。
- ※ 児童に学習カードを提示する場合は、一時間目と九時間目以降の計画のみを提示し、単元の二、八時間目の部分は、白い広用紙で覆っておきます。そこで、どんな学習が必要かを、今までの児童の学習経験から考えさせます。「気持ちを考える」「音読の練習」など具体的な学習内容が出てきたら、それが何時間目に必要かを指導者が意図的に位置付けていきます。
- ※ 学習計画を児童が考えながら立てることで、見通しをもたせることができます。また、毎時間の読みの目的がはっきりしてきます。
- ※ できあがった学習計画表は、教室に掲示しておき、全体の中のどの部分を学習しているのかをいつでも確認できるようにしておきます。

評価 音読劇を成功させるために、単元計画について進んで話し合おうとしている。

(アー1)

5 本時の学習について振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

- 音読劇をするという目的をもち、読み進めていくことをワークシートの振り返り欄で確認させる。
- 次時は、場面分けをすることを確認する。